



取組名

住み慣れた地域で最期まで暮らせる支援拠点  
「ふくしあ」(地域健康医療支援センター)の取り組み

受賞者

掛川市

所在地 ● 〒436-8650 静岡県掛川市長谷一丁目1番地の1

電話 ● 0537-21-1324

U R L ● <http://www.city.kakegawa.shizuoka.jp/life/iryuu/fukusia.html>E-mail ● [iryuu@city.kakegawa.shizuoka.jp](mailto:iryuu@city.kakegawa.shizuoka.jp)

地域概要 [静岡県掛川市] (平成27年3月31日現在)

取組の活動範囲: 市区町村内の概ね全域

総人口: 117,450人

65歳以上人口: 28,673人(24.4%)

75歳以上人口: 14,359人(12.2%)

一般世帯数: 42,169世帯

高齢単身者世帯数: 3,367世帯(8.0%)

高齢夫婦世帯数: 3,436世帯(8.1%)

キーワード

総合相談窓口、多職種・多機関の連携体制構築、積極的なアウトリーチ活動

## 取組の背景・経緯

# 支援の狭間にいる市民の悩みが出発点

掛川方式の地域包括ケアシステム「ふくしあ」誕生の背景には、次のような課題認識がある。①法律や制度の狭間でサービスを活用できず困っている方の支援機関がなかった。②どこへ相談に行けばよいか、相談先がわからない人がいた。③心身の障害や高齢者世帯などにより相談に行けない人がいた。④相談窓口が分散していたため、相談内容によって市民が移動をしていた。問題が複合化していたり、問題の中心が若い世代にあり、そこへの対応が必要であるなど、垣根の無い支援体制が必要だった。⑤医師・看護師不足を発端とした地域医療の危機を乗り越えるために、全国初となる自治体病院同士の統合である「中東遠総合医療センター」の開院に合わせて、病院が十分に機能を発揮できるように、新たな医療連携体制の構築が必要であった。⑥家族構成の変化により家族のサポート力が低下したことで、対応困難なケースが多くなってきていた。⑦今後の超高齢社会の進展など社会の変化に目を向ける

と、その変化に応じて対応可能な支援体制をとる必要があった。以上から、多くの住民の願いでもある「住み慣れた地域で安心して最期まで暮らせる」よう支援することをコンセプトに、行政、地域包括支援センター、社会福祉協議会、訪問看護ステーションが連携して総合的な在宅支援策の展開する官民協働の地域拠点として、市内5箇所ですく「ふくしあ」開設に至った。

## 取組の概要と特徴

# 横断的な支援体制と積極的なアウトリーチ活動

「ふくしあ」の大きな特徴は、次の5点にまとめられる。①垣根のないきめ細やかな支援(年齢や健康状態で垣根をつくらず、全ての地域住民を対象とした横断的な支援体制)、②迅速な多職種連携(住民からの相談に対しては、入所団体内の専門職をはじめ、地域の民生委員や地区役員、ケアマネジャーなど多くの関係機関で力を合わせ対応)、③アウトリーチの重視(来所できない方にも地域に出向き相談対応する、アウトリーチ活動を積極的に進め早期対応)、④予防的な視点を重視(地域からの情報発信を早期に受け止め、問題が重症化する前に総合支援体制につなげる)、⑤先駆的な面的整備(「中部ふくしあ」の同一敷地内に、地域医療、地域包括ケア、住まいのあり方を支える拠点として旧病院跡地を医療、保健、福祉、介護、教育の中核ゾーン「希望の丘」を整備)

## 取組の成果

# 相談のしやすさから市民の困りごとと解決へ

市民の困りごとへの総合的な相談対応(来所相談、電話相談、訪問相談)として、訪問相談8,549件、来所相談4,774件、電話相談9,218件の実績を挙げている。また、具体的な市民の声として、「家庭まで出向いて困りごとを聞いてくれるため、相談がしやすくなった」「どこに相談してよいかわからなかったが、ふくしあに相談したら、適切な部署や制度につなげてもらえた」「一人暮らし高齢者でも安心して生活できるようになった」「日中独居の母親のことをふくしあに相談したら、安心して働きに行けるようになった」「これまで地区役員や民生委員が対応に悩んでいたケースに、ふくしあが対応してもらえることで、解決が早くなり、役員の負担軽減にもつながった」といった声も上がっている。

